

研ぐ時空

~GLが僕らにくれたもの~

GLコンペティション2023 54番 阿部翔太・岡島政幸

GLの解釈

僕らが普段見て歩いてるGLは、表面的でしかない。

GL



僕らが普段見て歩いてるGLは、表面的でしかない。



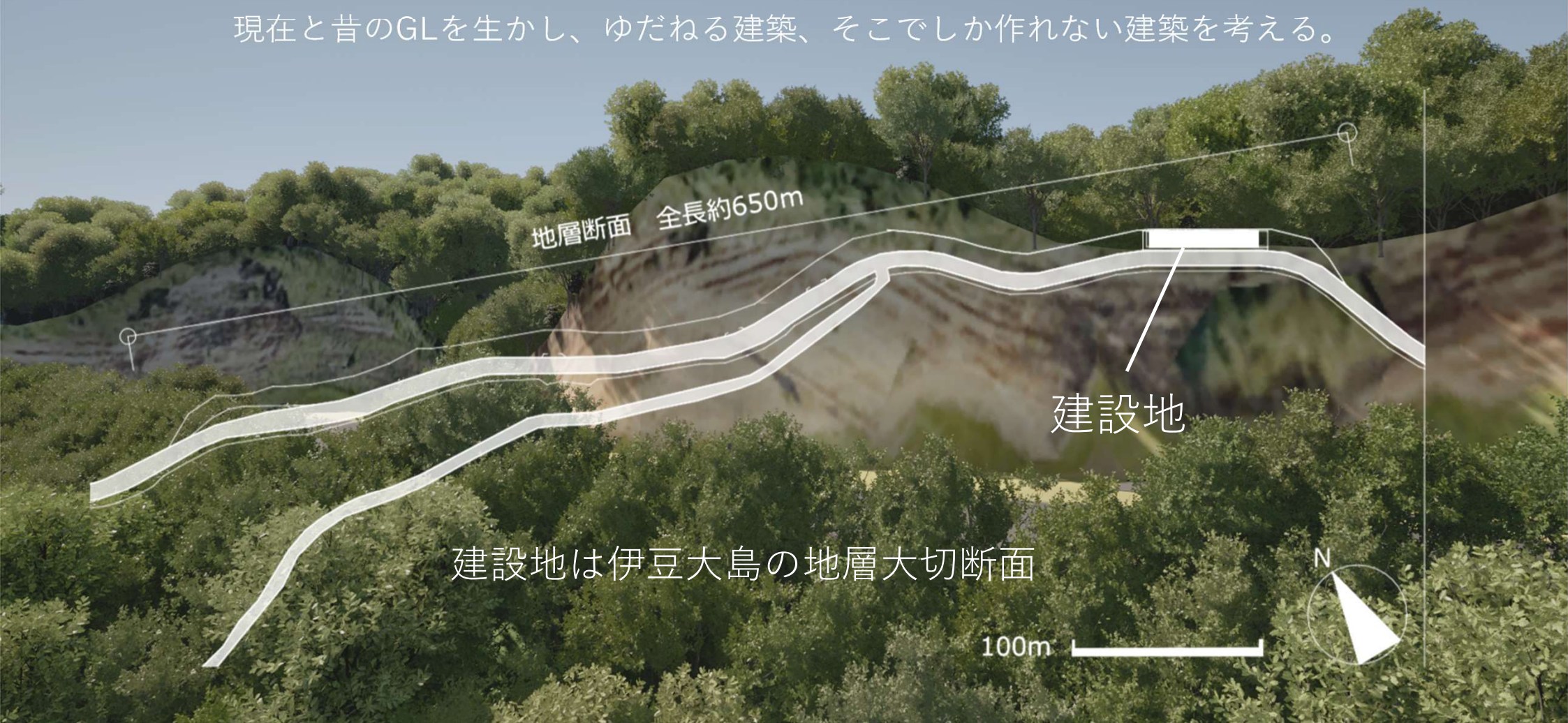
僕らが普段見て歩いてるGLは、表面的でしかない。
ただそのGLは、途方もない時間のかえてつくられたものである。



つまり、数えきれないほどの昔のGLが積み重なってできている。

地層断面である。

現在と昔のGLを生かし、ゆだねる建築、そこでしか作れない建築を考える。



これからの時代に必要な建築

人工知能AIの急速な進化 利便性のさらなる促進

それにより、本来人間が持っている感覚の劣化を引き起こす場面が増えてくる。

[視覚・味覚・嗅覚・触覚・聴覚]

例えば、

雨が身体にあたって濡れる

耳元で聞こえる自然の風の音

日向ぼっこして感じれる暖かな心地よさ

植物や石、木、土の自然物の触り心地や匂い

友達や家族、周りの人のたわいもない会話でほのぼの

このような日常に転がっている感覚を皆さんは覚えていますか？

人々の感覚を取り戻せる場所、またはそのきっかけを作ることができる
建築がこれからの社会に必要なになると考えた。

感覚を研ぐ空間 × 感覚を研ぐ時間

研ぐ時空

各層の研ぐ時空

現在の自然にできたGL ▼ 最高高さ24m

約3,000年前のGL ▼

水

約6,000年前のGL ▼

風

約9,000年前のGL ▼

火

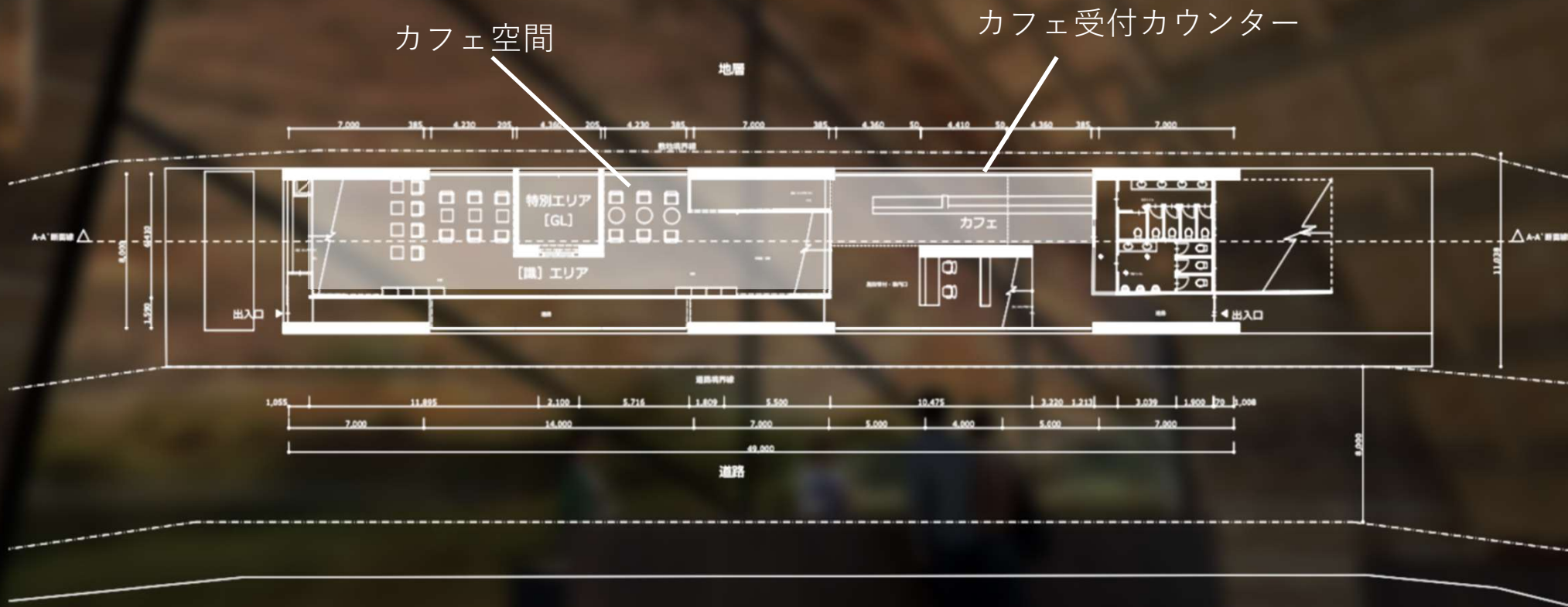
約12,000年前のGL ▼

地

約15,000年前のGL ▼

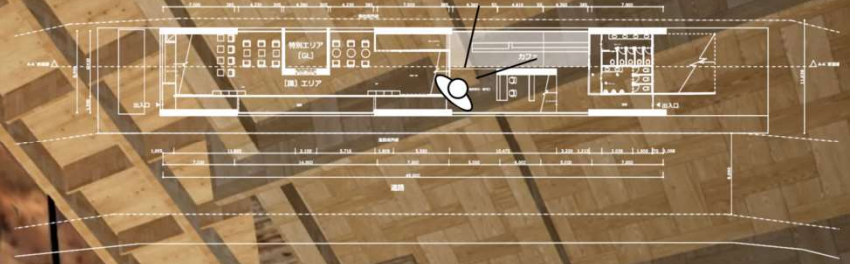
識





一階平面図 1F [識] エリア

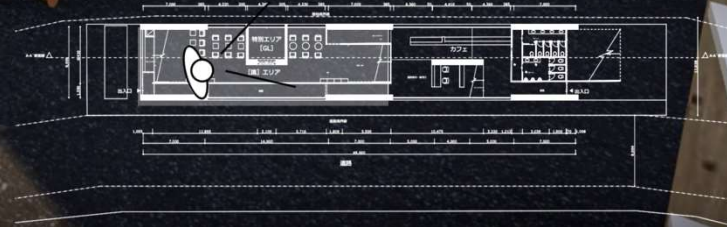
1F カフェ注文ロカウンター

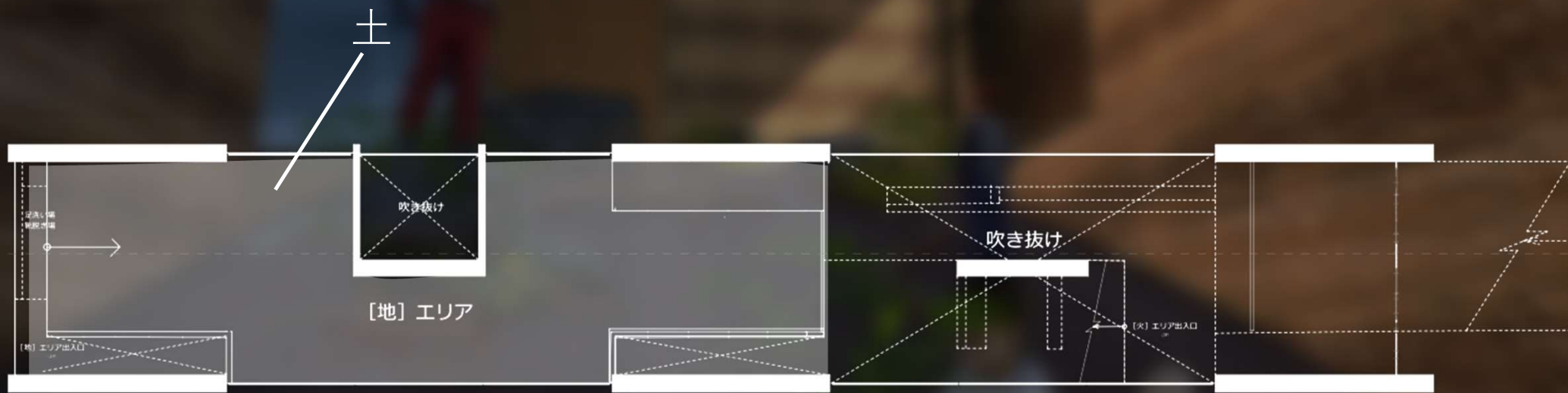




1F カフェ空間

飲食物を嗅ぎ、味を感じ、会話を聴き話すこと。





二階平面図 [地] エリア



2F [地] エリア



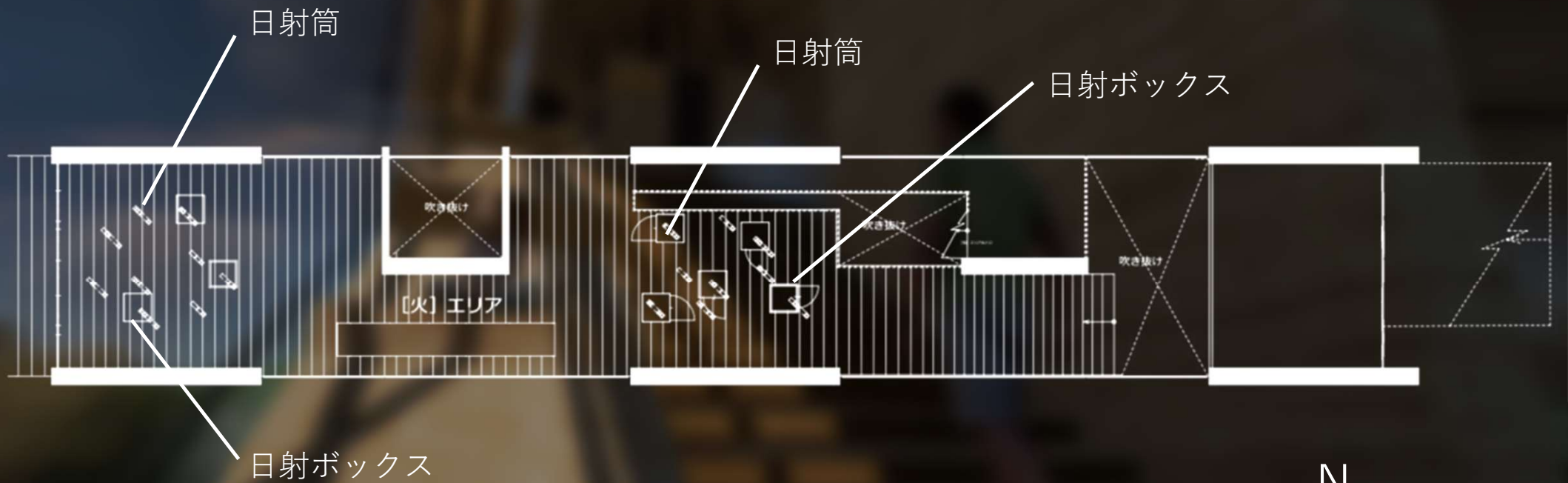
葉や石や土をよく視認すること。



2F [地] エリア



土を踏みしめ触り、匂いを嗅ぐこと。

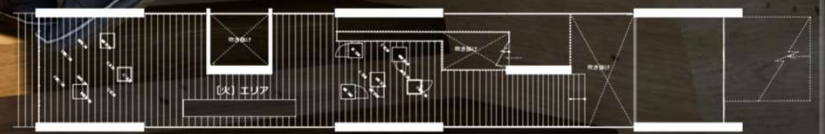


三階平面図 [火] エリア

日向ぼっこスペース

自然光によく触ること。

3F [火] エリア

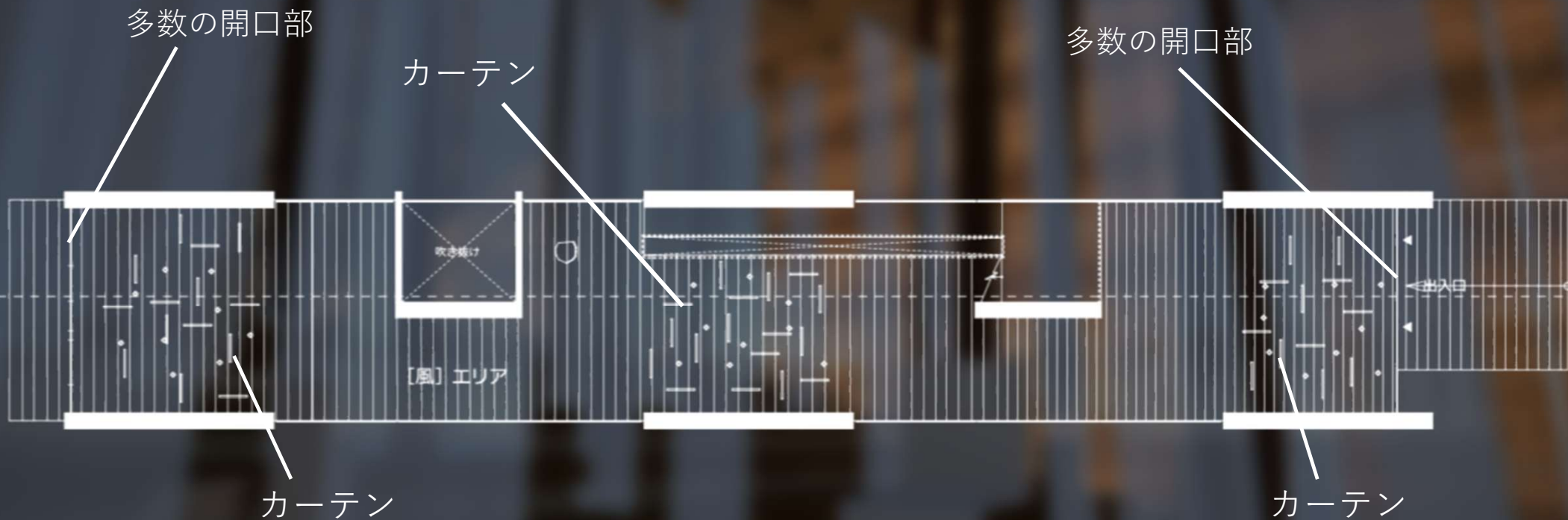




3F [火] エリア



[日射ボックス]
自然光を絞り、閉鎖的空間に差し込む



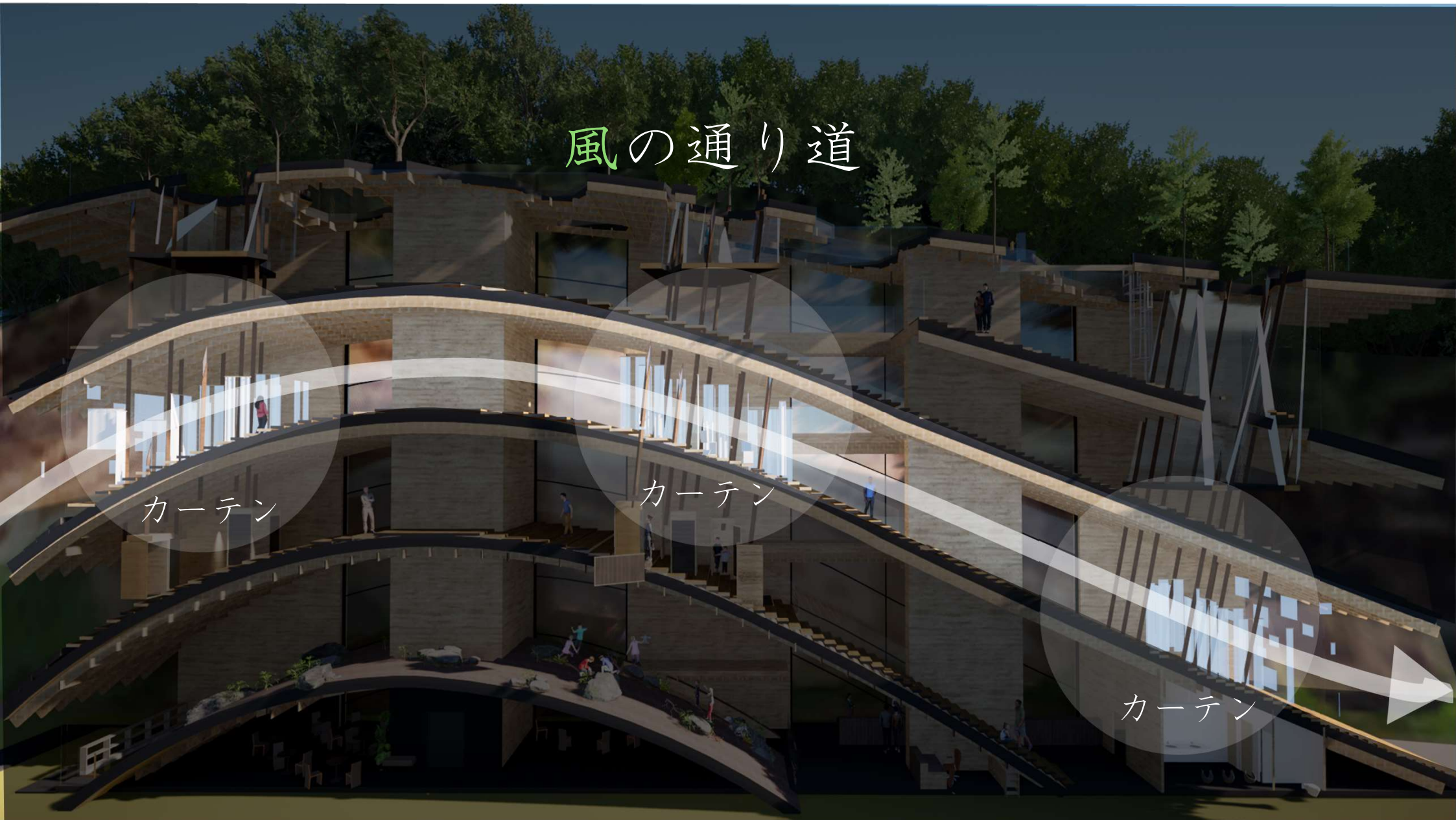
四階平面図 [風] エリア

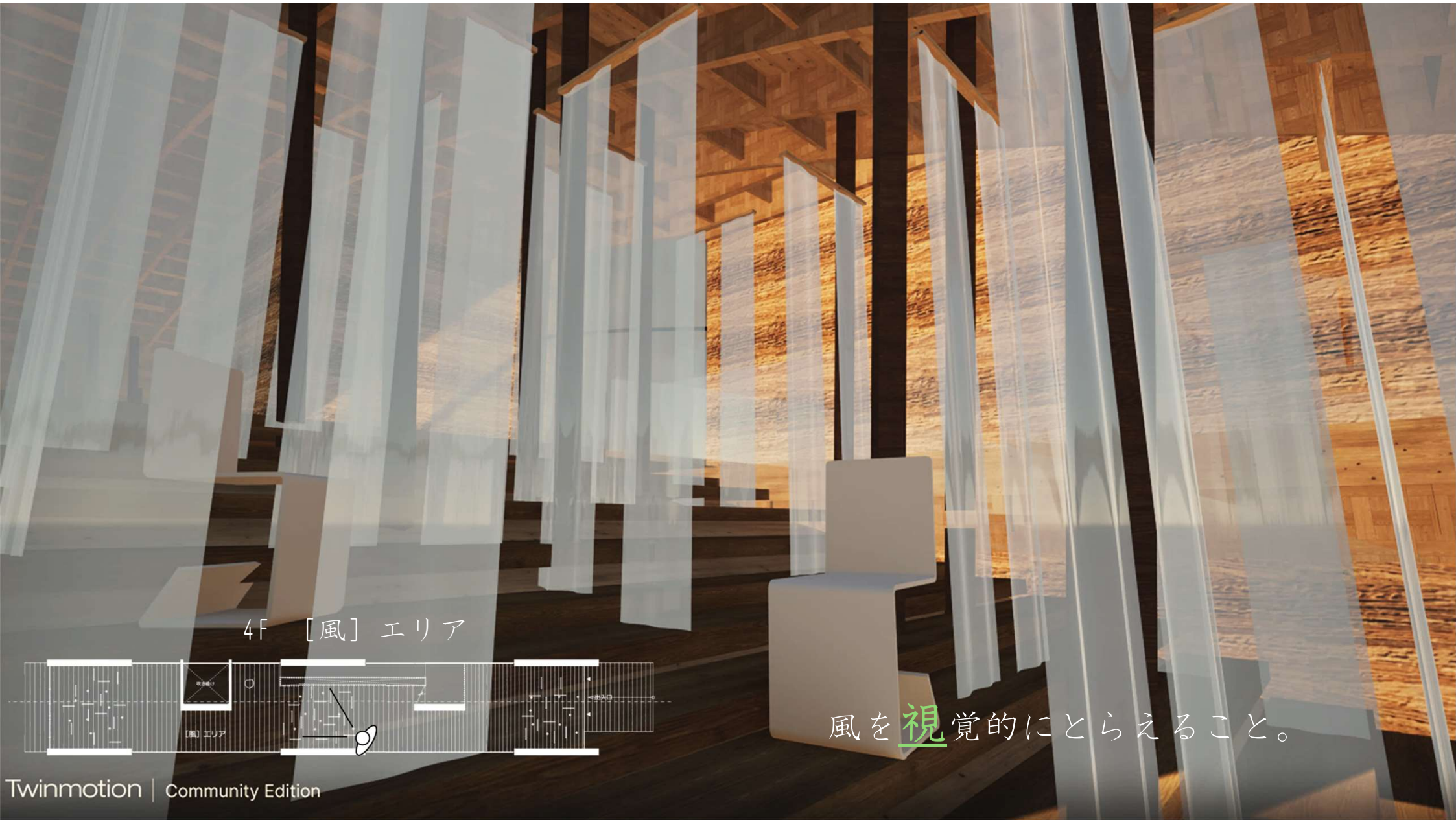
風の通り道

カーテン

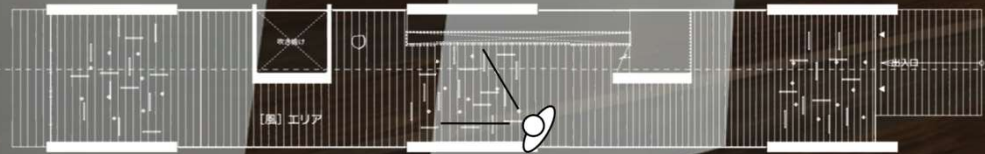
カーテン

カーテン



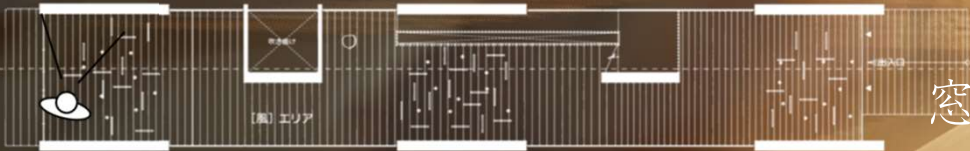


4F [風] エリア

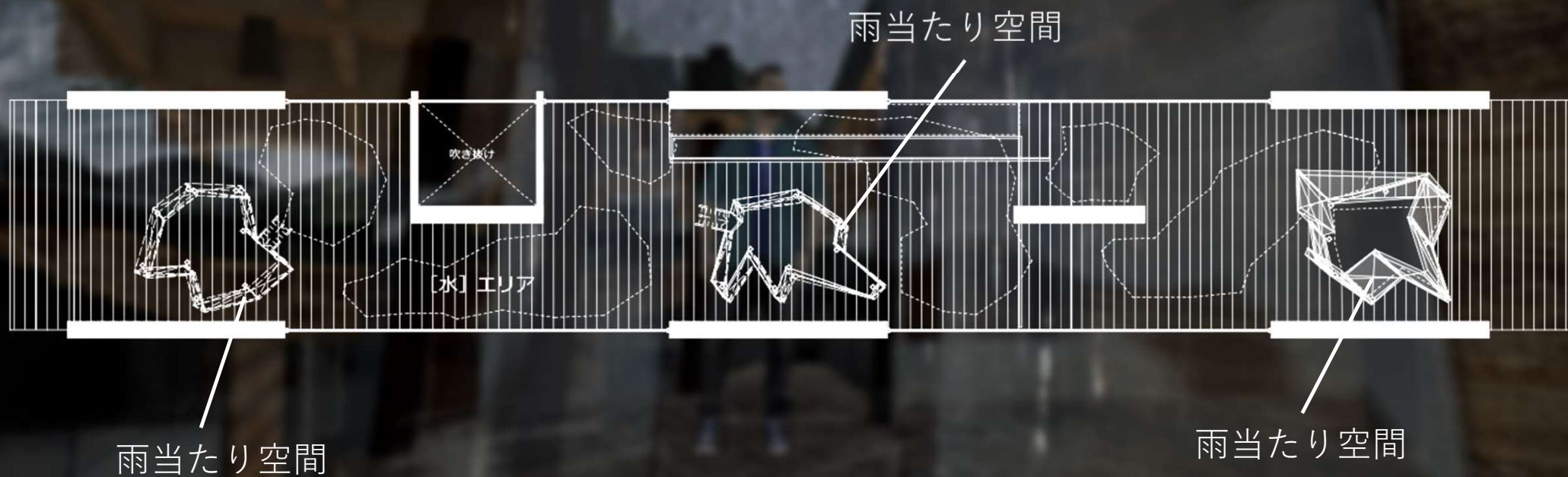


風を視覚的にとらえること。

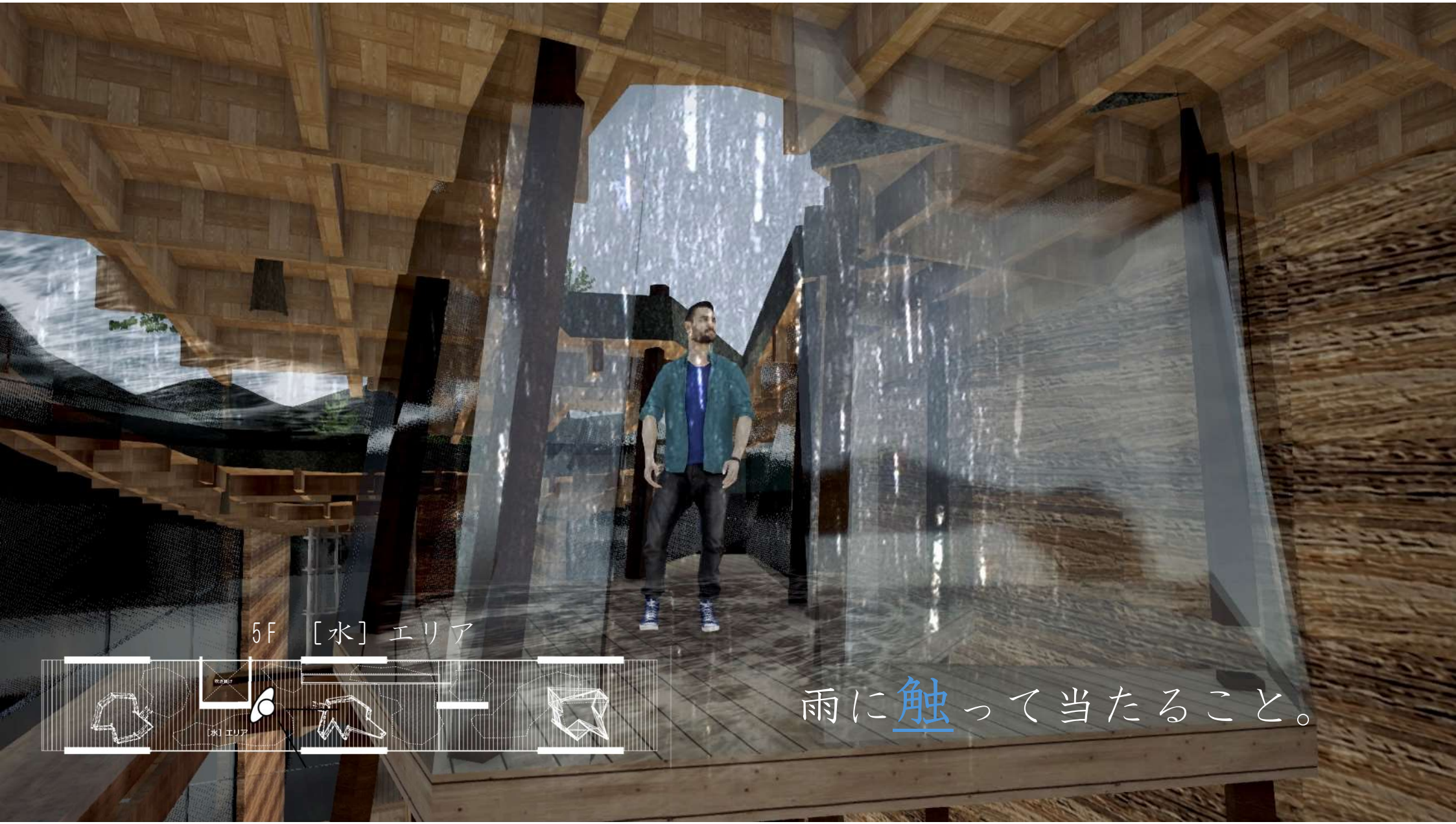
4F [風] エリア



窓を動かして音を聴き、風の強弱に触ること。



五階平面図 [水] エリア



5F [水] エリア



雨に触って当たること。

水盤の水面を視覚的にとらえること。

5F [水] エリア



美しいのは、昼間だけではない。





建築×地層断面で美しい空間を表現



自然の地層断面

土壁と窓ガラスで擬似地層

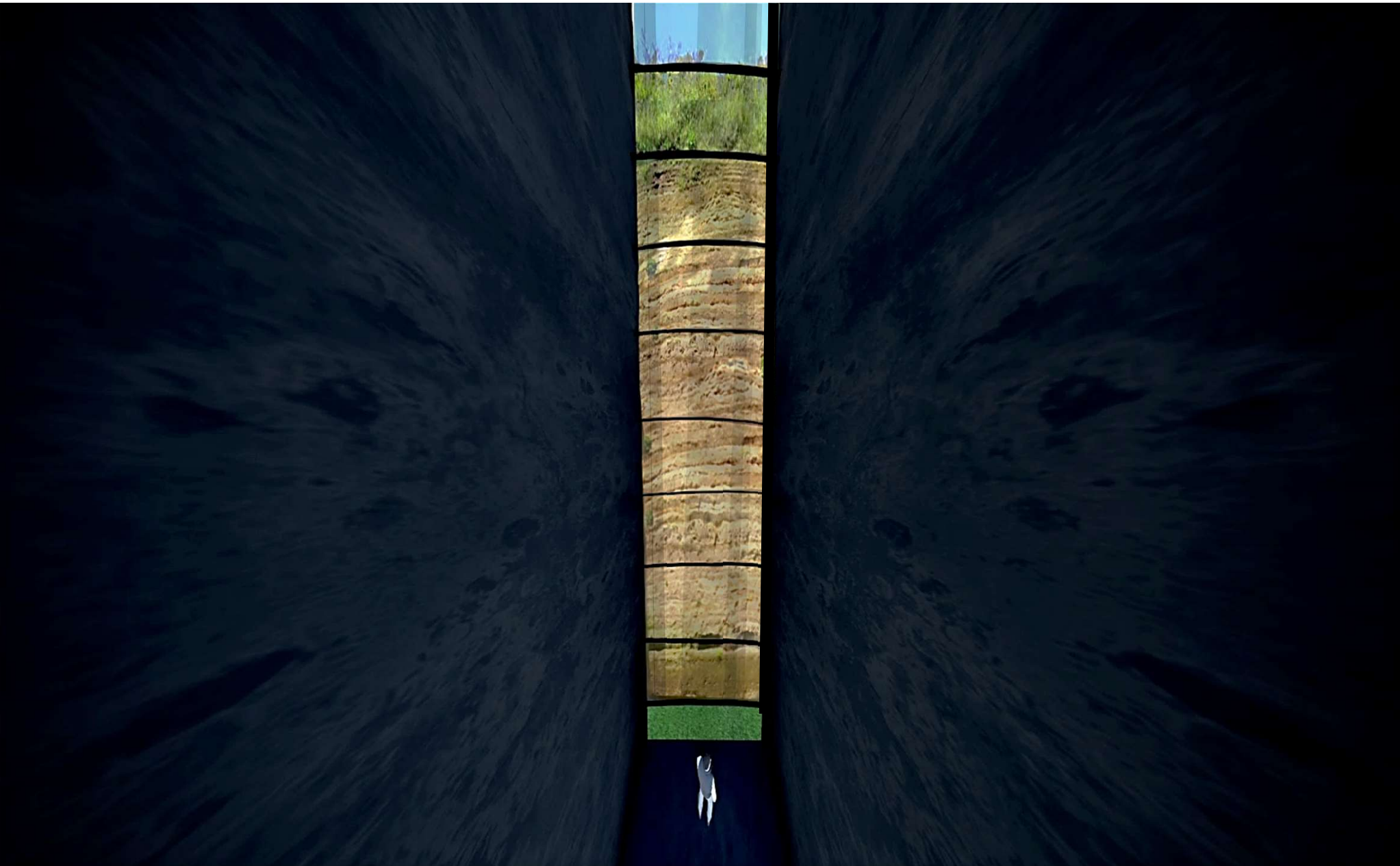


自然の地層断面

土壁と窓ガラスで擬似地層

特別エリア

約1万5000年ほどのGLの美しさをみせる空間





GLコンペティション2023 54番 阿部翔太・岡島政幸